

# インフルエンザ予防接種説明書

## 1、インフルエンザとは

普通の風邪とは違い、感染力が強く症状も重くなりがちで、肺炎や気管支炎などを合併し重症化することが多いのが特徴です。

## 2、インフルエンザの予防

流行前に予防接種を受けることが最も有効的です。また、インフルエンザは、空気中に拡散されたウイルスによって感染するので、患者と接触しない、人混みはなるべく避けるなどのほか、外出後はうがいや手洗いの励行も、普通の風邪等の予防と併せてお勧めします。



## 3、インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。

## 4、インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種後、発赤、腫脹、痛みが出たり、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感がみられることもあります。通常2～3日で治ります。まれにですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることもあります。その他、ギランバレー症候群、けいれん、肝機能障害、喘息発作があらわれる等の報告もあります。

## 5、町で接種費用を助成する対象者について

### 【定期接種】

- ①接種当日65歳以上の方
- ②接種当日60歳以上65歳未満で心臓、腎臓、呼吸器の機能または、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に重い障害を有する方で、本人が接種を希望する方

### 【任意接種】

- ①6か月～高校3年生に相当する年齢の方
- ②妊娠中の方

## 6、予防接種を受ける前に

### (1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、保健センター保健推進係にお問い合わせください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

～裏面もご覧ください～



## (2) 予防接種を受けることができない人

### ①明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。

### ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

### ③予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人。



「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身症状です。

### ④インフルエンザの予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人、および全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人

### ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上の①～④に入らなくても、医師が不適当と判断したときは接種できません。

## (3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

### ①心臓・腎臓・肝臓・血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方

### ②過去にけいれんの既往のある方

### ③過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方

### ④間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する方

### ⑤薬や食品でアレルギーをおこすおそれのある方

## 7. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種法による定期接種の場合、予防接種を受けたことによる健康被害であると厚生労働大臣が認定した場合に、予防接種法に基づく健康被害の救済措置の対象となります。医療費、医療手当等に対する給付があります。

詳しくは池田町保健センター保健推進係(電話 572-2100)にお問い合わせください。